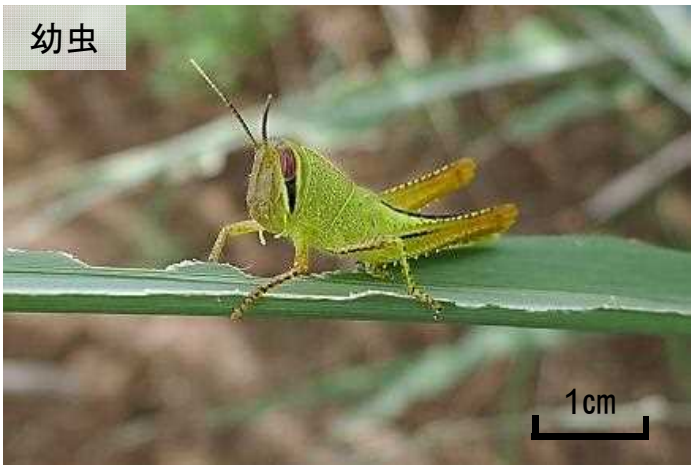
平成28年度病害虫発生予報第10号（1月予報）

＜今月のコラム＞
- 菌核病の防除対策について
- 冬春期野菜類におけるうどんこ病の防除対策について
- 2週間先までの気温の予測情報　～異常天候早期警戒情報とは～

今月のトピックス

タイワンツチイナゴ （さとうきび）
学名：*Patanga succincta*

幼虫



成虫



上位葉の被害



若齢幼虫の餌場となるイネ科雑草



生態と被害

本種はトカラ列島以南に分布しており、以前はセスジツチイナゴと呼ばれていた。成虫は52～81mmになる国内最大のバッタである。前胸背の後縁部は黄色く縁取られており、体下面の毛はまばらである。後翅の基部半分は鮮やかな紅色をしており、飛翔時は紅色に見える。幼虫の体色は黄緑または薄黄色。幼虫・成虫ともに複眼に明瞭な斑紋がある。年一回の発生で、越冬した成虫が3～5月に産卵し、卵は4～6月にふ化する。若齢幼虫（1～3齢）はさとうきびほ場周辺のイネ科植物を摂食する。4齢以降はさとうきびの葉を加害するようになる。卵期に干ばつが続くと多発生しやすい。

激発した場合は葉の中肋のみを残し食害するため、さとうきびの生育に大きな影響を及ぼす。若齢幼虫期の防除が効果的であるため、幼虫の発生を早期に発見し薬剤による防除を行う。幼虫の好適な餌場となるほ場周辺のイネ科雑草の除草に努める。

http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html

平成28年12月26日
沖 縄 県 病 害 虫 防 除 技 術 セ ン タ ー